

## 宿題を効果的に活用するために

### 1 ねらいを明確にしましょう。

その宿題に取り組ませることで、子どもにどのような力を付けさせたいのか、ねらいを明確にしましょう。

### 3 学んだことを活用させましょう。

学んだことを実際の生活の中で活用し、生きてはたらく力を身に付けさせるように工夫しましょう。

### 5 がんばりを受け止めましょう。

宿題を出したら、必ず確認しましょう。確認の仕方を工夫して、意欲を引き出しましょう。

- ・スタンプを押す。 ・添削する。
- ・コメントを書いて次に生かす。
- ・保護者にも子どもの様子や成長を伝える。

### 2 学び方を具体的に指導しましょう。

課題解決のために、日頃の学習指導を通して、どのように学ばばよいのかなど、学び方を具体的に指導しましょう。

### 4 人とのかかわりをもたせましょう。

人間関係が希薄になりがちな今、家族や周囲の人とのかかわりをもたせるように工夫しましょう。

### 6 優れた取組を広めましょう。

宿題の優れた取組があったら、他の子どもも参考にできるように、そのよい点を褒めながら紹介しましょう。紹介された本人の学習意欲も高めることができます。

## 教師の意図的な働きかけで、宿題から自主学習へとつなげましょう。

家庭学習を、生涯にわたって学び続ける態度を養う機会であると考え、低学年から高学年へ、また小学校から中学校へと、子どもが成長するにつれて、家庭学習の内容が、宿題から子どもの興味・関心に基づく自主学習へと移行していくことが理想です。そのためには、教師の意図的・計画的な指導が大切です。宿題をきっかけに子どもの「学ぶ意欲」を高め、「自ら学ぶ力」を育てましょう。

保護者用リーフレットでは、栃木の子どもの学力向上を図るために、学校と家庭が連携することの重要性を述べています。また、次のような「家庭学習を支える4つのポイント」を示し、それぞれのポイントについて、保護者から子どもへの具体的な働きかけ方を例示しています。

生活のリズムを整えましょう

学ぶ雰囲気をつくりましょう

お子さんと対話をしましょう

努力を認め、励ましましょう

# 栃木の子どもを **ガンガン** 伸ばす

## 家庭学習のすすめ

— 自ら学び、自ら考える栃木の子どもを育てるために —



平成21年1月 栃木県教育委員会

平成20年4月に実施された全国学力・学習状況調査から、本県児童生徒の学力向上には、一層の授業改善と、家庭学習の地道な積み上げが必要であることが分かりました。本リーフレットは、教職員が家庭学習の意義を再認識し、家庭学習の習慣化を図るためのポイントをまとめたものです。

子どもたちの将来の幸せのために「確かな学力」を育むことは、私たち教職員に課せられた責務です。学業指導の充実に努めるとともに、保護者と連携しながら子どもたちに学ぶ意義を理解させ、家庭学習の充実に図りましょう。

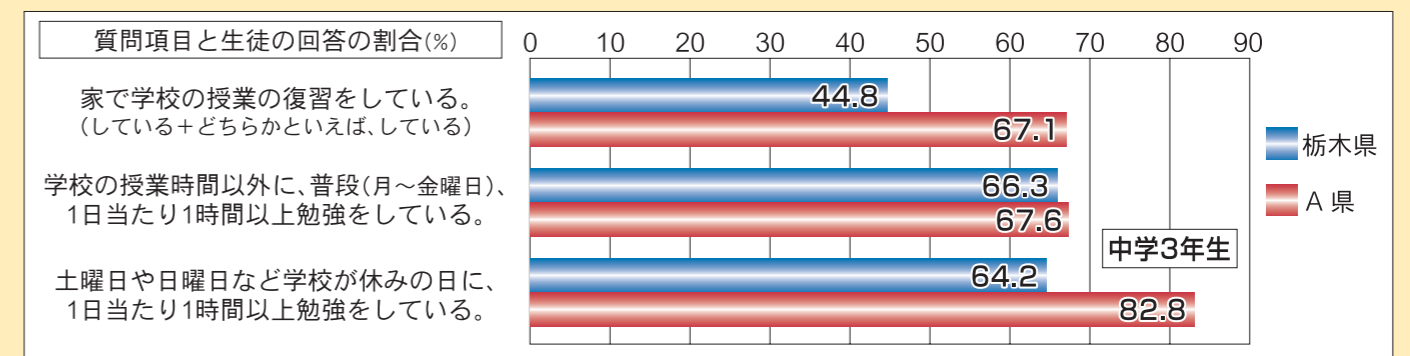
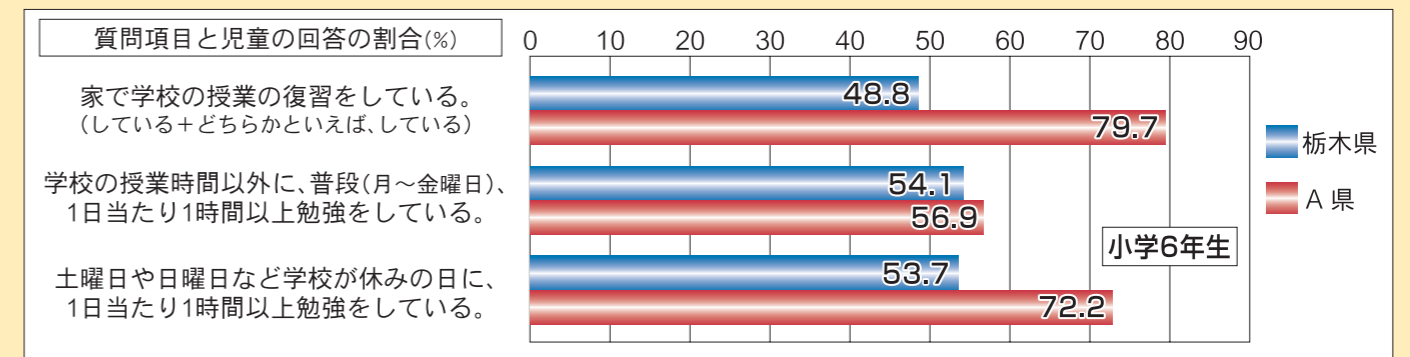
### 勉強についての意識

次の表は、平成20年4月に実施された全国学力・学習状況調査における栃木県とA県（平均正答率上位県）の児童生徒の意識について比較したものです。栃木の児童生徒は、A県の児童生徒と同じくらい、授業や教科の学習について、高い意識をもっています。

質問項目と児童生徒の回答の割合(%)	小学6年生		中学3年生	
	栃木県	A県	栃木県	A県
学校で好きな授業がある。(ある+どちらかといえば、ある)	94.4	93.2	78.5	80.2
国語の勉強は大切だ。(そう思う+どちらかといえば、そう思う)	91.9	91.8	89.4	91.3
算数(数学)の勉強は大切だ。(そう思う+どちらかといえば、そう思う)	92.9	93.5	80.0	82.6

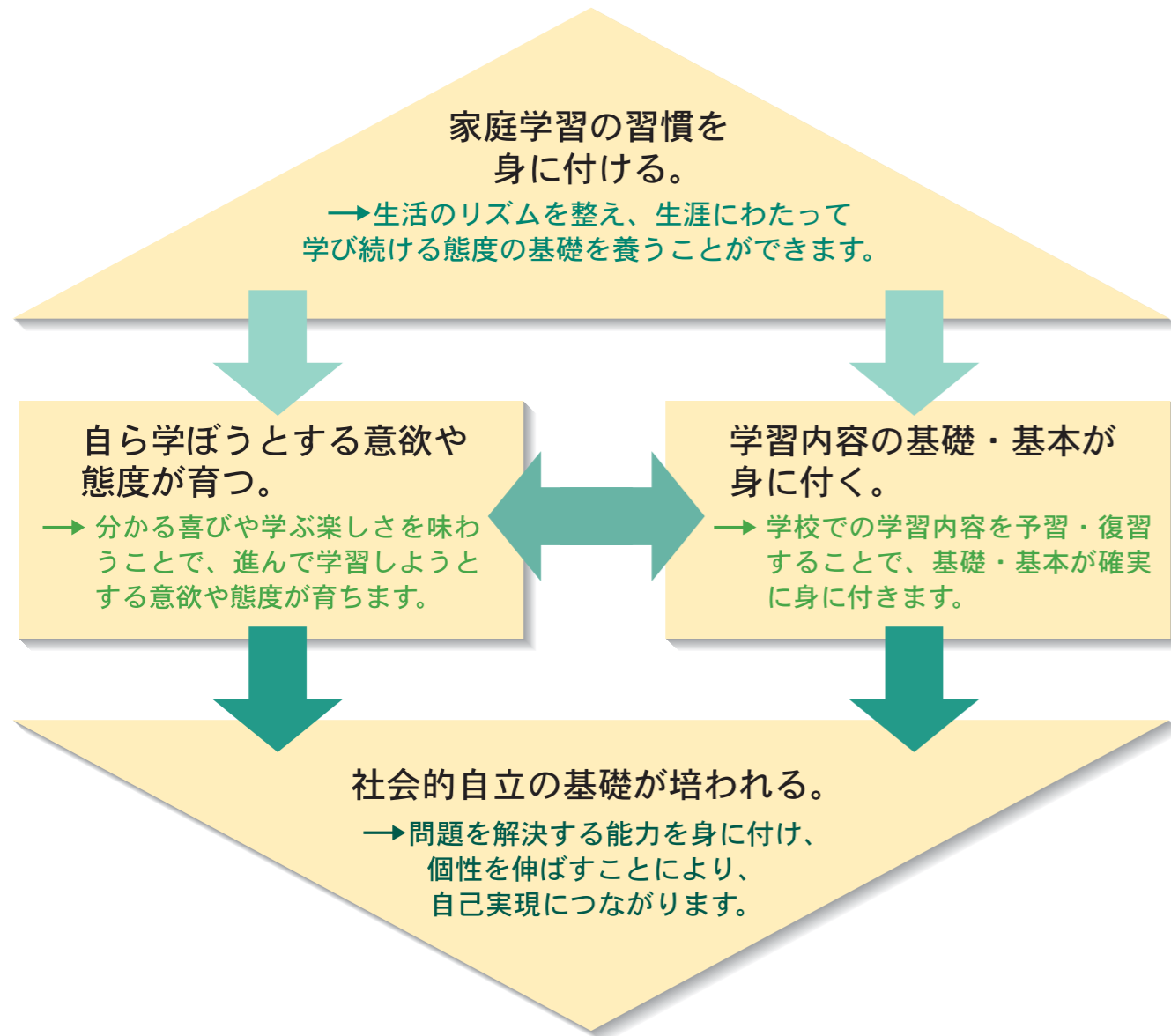
### 家庭学習の取組状況

次のグラフは、栃木県とA県の児童生徒の家庭学習の取組状況を比較したものです。学習への意識とは異なり、実際の取組状況には差があることが分かります。



## 家庭学習の意義を、子どもに分かりやすく伝えましょう。

子どもに家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、家庭学習の意義を理解させることが大切です。子どもがその意義を理解して取り組み、効果を実感することができれば、主体的に家庭学習に取り組むようになります。次のことを、小・中学校の発達段階に応じて、教師が子どもに分かりやすい言葉で伝え、理解させましょう。



**コラム** 子どもが、学校で学んだことを定着させるには、家庭学習が大切です。家庭学習のねらいや内容などについて、保護者の理解を得るために、「家庭学習の手引き」を作成しましょう。「家庭学習の手引き」には、自校の子どもの実態や育てたい子ども像を踏まえて、具体的で分かりやすい内容を盛り込みます。また、表現や表記については、子どもにも理解できるように発達の段階に応じた工夫をしましょう。次に示すのは、「家庭学習の手引き」に盛り込むとよい項目の例です。

家庭学習のねらい

学習時間の目安

学習の仕方と留意点

身に付けたい力

各教科の学習内容

保護者へのメッセージ

## 宿題を活用して、家庭学習の習慣を身に付けさせましょう。

子どもに家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、意図的に家庭学習の機会をつくるのが大切です。そのために有効な手立ての一つが「宿題」です。子どもは宿題に取り組むことによって、学校で学習した内容の理解を深めたり、学習することの充実感を得たりすることができます。そのような経験を重ねることで、家庭学習の習慣が身に付き、学習への意欲が高まります。

そこで、宿題の効果について再確認し、家庭学習の習慣化のために宿題を活用しましょう。

### 宿題の工夫

宿題を出すことによって、様々な効果が期待できます。しかし、教師がそれを理解した上で適切に活用しなければ、宿題は子どもにとって、単なる「義務的なもの」になったり、負担感だけが残る「つらいもの」になったりしかねません。基礎・基本の定着に加えて、子どもが学ぶことの楽しさを実感できるように、授業の内容と関連付けて、予習的な宿題や復習的な宿題を工夫しましょう。また、子どもの実態に応じて、いろいろな型の宿題を使い分け、子どもの学びを促しましょう。

#### 一斉同一型

○全員に、同一の質と量の宿題を出す。

- 例1) 漢字練習
- 今日の授業で習った漢字を10回ずつ書く。
- 例2) 音読
- 今日の授業で読んだページを3回読む。
- 例3) 問題練習
- 指定されたページの問題を解く。

#### 一斉個別型

○全員に宿題を出すのが、質や量を個に応じたものにする。

- 例1) 語句の意味調べ
- 文章を読んで、意味のわからない言葉について国語辞典で調べる。
- 例2) 個に応じたプリント学習
- 数種類のプリントから、自分にあったものを選択し、学習する。
- 例3) テストの間違い直し
- テストで間違えたところをやり直す。

#### 自由選択型

○宿題の内容をいくつか示し、その中から自分で学習したいものを選択させる。

- 選択させる宿題の例
- 興味がある本を読む。
  - 自分でテーマを決めて、インタビューをする。
  - 家の周りなどで野外観察をする。
  - 楽器の練習をする。
  - 自分で題材を決めて、絵を描く。
  - 自分がしたい運動をする。
  - 家族と一緒に料理を作る。

### 宿題についての共通理解

家庭学習の習慣を身に付けさせるためには、宿題の考え方やその出し方などについて、校内で改めて話し合い、共通理解を図ることが大切です。特に、中学校では、教科ごとに担当教員が異なるので、他教科の状況を把握しながら、生徒にとって適切な分量にする必要があります。

さらに、宿題についての保護者の考えを把握することも大切です。宿題を「たくさん出してほしい」という保護者もいれば、「あまり出さないでほしい」という保護者もいます。自校の宿題の方針を保護者に伝え、理解と協力を得られるようにしましょう。